

鹿児島県鹿児島市における高齢者の
食生活と日常生活に関するアンケート調査

**The Dietary Habits and the Everyday Life of the Aged
in Kagoshima City, Kagoshima Prefecture**

倉元綾子

KURAMOTO Ayako

(Received October 1st, 1999)

I investigated the dietary habits and the everyday life of the aged by using questionnaires in Kagoshima City, Kagoshima Prefecture, in June and July, 1999. The results were as follows:

- (1) They managed their everyday life active, with doing household chores, gardening, or farming. They took care for their health. A half of them had the anxiety for the future, especially for their health.
- (2) They ate meals regularly and used 15 to 30 minutes. They were careful about their health and food and nutrition. They tended to eat a lot of vegetables, lightly-seasoned food, eat regularly and eat seaweed. They feed on rice. They bought already cooked food or instant food none, once or twice a month, or once or twice a week. They seldom exchanged food or vegetables with their neighbors.
- (3) Most of them were satisfied with their dietary habits. They tasted their meals good, enjoyed meals, didn't eat out, had a good appetite, ate in a good atmosphere, had no food preferences, and waited eagerly for meals.

Keywords ; 高齢者 the aged, 食生活 dietary habits, 日常生活 everyday life, 鹿児島県 Kagoshima prefecture

はじめに

現在、わが国は急速に高齢化がすすんでいる。

1999年10月現在、65才以上の高齢者は全国で2,116万人高齢化率16.7%で、6人に1人が高齢者となるにいたった¹⁾。また、日本人の平均寿命もながく、1997年には男77.19才、女83.82才と世界一を維持している²⁾。

一方、鹿児島県は日本のなかでも従来から高齢化率が高く、1998年10月推計で全国第5位、21.6%(男18.0%、女24.7%)が高齢者である³⁾。平均余命は1995年で男73.13才、女83.36才である⁴⁾。

ここでは高齢化率22.7%の志布志町の調査に合わせて行なった鹿児島市(高齢化率14.9%)の調査結果の詳細を報告する。調査では主として高齢者の食生活と日常生活を中心にその実態を明らかにした。また、食生活の向上と改善のための若干の検討を行なった。

1. 調査方法

調査は1999年6,7月、質問紙法、留置法でおこなった。

内容は食生活について、その他に健康、経済状態、日常生活についても合わせて調査した。対象者数は200人、有効回収数140票、回収率70%であった。結果は単純集計、必要に応じてクロス集計をおこなった。結果の解析にあたっては同時におこなった志布志町の調査等を随時示した⁵⁾。また、ここでは考察と参考文献は基本的なものだけにとどめたので、その詳細は志布志町に関する拙稿にゆずった。

2. 鹿児島市の概要

鹿児島市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央部にあつて、東は鹿児島湾に面し、海を隔てた桜島の東半分を含んだ東西約27km、南北約30kmの都市である。市街地は、鹿児島湾に流入している甲突川など7つの中小河川により形成された小平野部にありその周辺は海拔100mから300mの丘陵地帯(シラス台地)となっている⁶⁾。

鹿児島市の人口は1998年4月現在541,928人、65歳以上の高齢者は80,686人で、高齢化率14.9%で⁷⁾鹿児島県全体の21.4%を下回っている。しかし、高齢化は確実に進行してきている⁸⁾。

3. 結果および考察

1) 調査対象者の属性

はじめに調査対象者の属性について示しておきたい(表1)。調査対象者なった高齢者のうち、男性は38.6%、女性は61.4%であった。平均年齢は、男性73.1歳、女性74.7歳であった。有配偶者61.4%、無配偶者35.0%であった。男性の無配偶者は14.8%であったのに対し、女性では47.7%にも達している。これは、相対的に女性が長寿であることと関連する一般的傾向を裏づけるものである。次に、高齢者の居住形態について調べたところ、独居21.4%、夫婦世帯47.9%が多かっ

表1 対象者の属性

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
性別	100.0%	38.6%	61.4%	
年齢	74.1	73.1	74.7	
有配偶者	61.4%	81.5%	48.8%	*
無配偶者	35.0%	14.8%	47.7%	***
独居	21.4%	11.1%	27.9%	*
夫婦世帯	47.9%	70.4%	33.7%	***

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

表2 健康に対する心がけ

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
心がけがある	79.3%	77.8%	80.2%	
栄養・食事	60.7%	53.7%	65.1%	***
運動	45.7%	50.0%	43.0%	
睡眠・休養	42.9%	46.3%	40.7%	*
規則正しい生活	34.3%	35.2%	33.7%	***

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

た。これらをあわせた高齢者核世帯は69.3%であった。ここでも男女の間に有意な差があり、独居者は女性が多く（27.9%）、夫婦世帯者は男性が多かった（70.4%）。

全国平均では65才以上の高齢者の場合、50.3%が子と同居しており、ひとり暮らし13.2%、夫婦のみ32.3%（高齢者核家族45.5%）である⁹⁾。

2) 健康への心がけおよび日常生活

まず、食生活と深く結びついている健康に関する意識について調査した。対象者の67.1%が、「非常に健康」（7.9%）または「まあまあ健康」（59.3%）と答えた。しかしながら、「体の不調、不安がある」（12.9%）、「自宅療養中、通院中」（15.0%）、「ねたきり」2.1%となっている。

次に、「健康のために心がけていることがあるか」と尋ねたところ、79.3%が「はい」と回答した。その内訳を表2に示した。栄養・食事60.7%、運動45.7%、睡眠・休養42.9%、規則正しい生活34.3%に注意していることがわかる。

全国的に、高齢者は、規則正しい食事78.5%、睡眠64.2%、食べ過ぎない63.6%、うす味を食べている53.5%、バランスのとれた食事53.1%、運動等をしている49.6%、たばこをすわない

表3 日常活動

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
庭, 住居の手入れ	48.6%	53.7%	45.3%	
家事一般	47.1%	27.8%	59.3%	**
農業・林業	27.1%	35.2%	22.1%	
配偶者の世話	15.7%	7.4%	20.9%	*
留守番	10.7%	7.4%	12.8%	
孫の世話	4.3%	1.9%	5.8%	
家業手助け	2.9%	5.6%	1.2%	
その他	7.9%	11.1%	5.8%	
なにもしていない	11.4%	14.8%	9.3%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

表4 日常のつきあい

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
親戚づきあい	90.0%	87.0%	91.9%	
子どもとの交流	87.1%	90.7%	84.9%	
友達づきあい	84.3%	79.6%	87.2%	
ニュース関心	84.3%	90.7%	80.2%	
近所づきあい	70.0%	66.7%	72.1%	
ボランティア活動	33.6%	35.2%	32.6%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

52.6%, お酒を飲み過ぎない47.2%など¹⁰⁾, 栄養, 健康のために多くのことに気をくばっていることが明らかにされてきた, これとよく一致している. また, 運動をする割合は44.1%で全国調査で60-69才33.7%, 70才以上29.5%にくらべて高い結果である¹¹⁾. これは運動習慣のある場合, 食事バランスが良好であるという過去の国民栄養調査の結果などを考えあわせると好ましい¹²⁾.

高齢者の日常の仕事を検討した. 表3に示すように, 男性では庭・住居の手入れ(53.7%), 農業・林業(35.2%), 家事一般(27.8%)が上位にあげられた. 一方, 女性では家事一般(59.3%)が最も高く, ついで庭・住居の手入れ(45.3%), 農業(22.1%)の順であった. しかし, 何もしないと回答した割合は11.4%(男性14.8%, 女性9.3%)で, 従来の調査結果よりわずかに増えてきている(1994年佐多町3.4%, 1994年鹿児島市8.8%, 1996年菱刈町9.1%).

また, 余暇活動について調べたところ, 主として, テレビ・ラジオ・新聞など(74.3%), 趣味(40.7%), 友人・知人とのつきあい(33.6%), 運動(22.9%), 知識や教養を高める(14.3%), 家族と過ごす(12.9%), 孫の相手(10.0%)などの活動をしている.

日常のつきあいは, ボランティア活動(33.6%)以外の各項目で高い値を示した(表4)(親戚づきあい90.0%, 子どもとのつきあい87.1%, ニュースなどへの関心84.3%, 友だちづきあい84.3%, 近所づきあい70.0%). 特に, 友だちづきあい87.8%, 近所づきあい76.4%の各項目では, 志布志町に比べて低い値を示した.

表5 収入と支出

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
<収入>				
国民年金	55.0%	42.6%	62.8%	
厚生年金	30.0%	37.0%	25.6%	
その他年金	20.7%	24.1%	18.6%	
恩給	8.6%	3.7%	11.6%	
自営	17.1%	20.4%	15.1%	
給与	7.1%	11.1%	4.7%	
利子・家賃	3.6%	3.7%	3.5%	
仕送り・小遣い	2.1%	0.0%	3.5%	
その他	0.7%	1.9%	0.0%	
<支出>				
食費	55.0%	61.1%	51.2%	
交際費	33.6%	22.2%	40.7%	
子・孫の小遣い	8.6%	3.7%	11.6%	
住居費	4.3%	7.4%	2.3%	
貯蓄	2.9%	3.7%	2.3%	
被服費	0.0%	0.0%	0.0%	
その他	5.0%	7.4%	3.5%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

また、収入は、国民年金55.0%、厚生年金30.0%、その他年金20.7%、恩給8.6%、自営17.1%、給与7.1%が多かった(表5)。これは、公的年金・恩給が高齢者世帯における所得のなかで最も大きい割合を占めることと(63.6%)、稼働所得(雇用者所得、事業所得、農耕・畜産所得、家内労働所得)26.6%であるなどという結果と同様であった¹³⁾。

支出では、食費55.0%、交際費33.6%が多かった(表5)。これは、高齢者世帯では食料費、交際費が高いという一般的な消費構造とよく照応していた¹⁴⁾。

3) 食生活状況

次に食生活の状況について検討した。

(1) 食事の摂取状況

まず、食事の摂取状況について調べたところ、朝食92.9%、昼食93.6%、夕食92.9%とはほぼ全員が摂取している。高齢者(60才以上)では朝食をきちんと食べる割合が高いという全国的な調査の結果と同様であった¹⁵⁾。

また、鹿児島市では間食を摂取する割合が「はい」25.7%、「時々」48.6%が多かった。今回の志布志町での調査でもほぼ同様の結果であった。この結果は、以前の筆者の調査に比べ高い割合であった。

(2) 食事摂取の時刻と食事に要する時間

食事摂取の時刻について調査した(表6)。それぞれの食事の平均摂取時刻は朝食では7時19分、昼食12時14分、夕食18時45分であった。また、朝食では7時台(43.6%)、昼食では12時台(73.6%)、夕食では19時台(42.1%)、18時台(41.4%)に食事をとる割合が多い。昼食摂取の時間帯は集中しており、朝食、夕食ではやや摂取時間帯に広がりがあった。

食事に要する時間については、いずれも15-29分が最も多く、朝食で60.7%、昼食で53.6%、夕食で43.6%であった。朝食・昼食はやや短く、夕食はやや長かった。また、女性のほうが男性よりも長い時間をかけて食事をしていた。

今回、同じように調査を行なった志布志町の結果とくらべ、鹿兒島市ではいずれの食事もやや長い時間を要していた。この結果は、1997年の全国的な調査の結果とほぼ同様であったが、夕食がやや遅い傾向にある¹⁶⁾。

表6 食事摂取の時刻

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
<朝食時刻>				
平均時刻	7:19	7:08	7:28	***
5時台	2.9%	3.7%	2.3%	
6時台	20.7%	35.2%	11.6%	
7時台	43.6%	35.2%	48.8%	
8時台	25.7%	18.5%	30.2%	
9時台	3.6%	1.9%	4.7%	
10時台以降	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	3.6%	5.6%	2.3%	
<昼食時刻>				
平均時刻	12:14	12:07	12:19	
11時台	10.0%	14.8%	7.0%	
12時台	73.6%	74.1%	73.3%	
13時台	13.6%	11.1%	15.1%	
14時台以降	2.1%	0.0%	3.5%	
無回答	0.7%	0.0%	1.2%	
<夕食時刻>				
平均時刻	18:45	18:41	18:47	***
17時台	5.7%	22.2%	2.3%	
18時台	42.1%	66.7%	47.7%	
19時台	41.4%	0.0%	36.0%	
20時台	7.9%	7.4%	10.5%	
21時台	0.7%	0.0%	1.2%	
22時台以降	1.4%	3.7%	1.2%	
無回答	0.7%	0.0%	1.2%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

(3) 一緒に食事をする人と食事内容

一緒に食事をする人について調べた。3食の平均では、配偶者と一緒に食事をする人が44.3%、同居の家族とが25.7%、一人が27.1%となった。これは配偶者の有無、居住形態など前述した属性の特徴と関連して、男女間に違いがみられた。すなわち、男性では配偶者(66.0%)、女性では一人(35.7%)が有意に多かった。

さらに、配偶者や同居の家族と一緒に食事をする場合の食事内容について調べたところ、ほとんど(93.7%)が「同じ」だった。

(4) 買い物と食事作り

食料品の買い物について、そのおもな担い手と頻度、買い物をするところについて調査した。その結果、買い物の担い手は、本人47.1%、配偶者30.7%で、男性では70.4%が配偶者、女性では66.3%が本人で、男女の間に大きな差が見られた。また、買い物の頻度は週3,4回が32.9%、週1,2回32.1%、毎日26.4%であった。買い物をするところとしては、スーパーマーケットが75.7%で最も多く、個人商店42.1%、生協・Aコープ12.1%、走るスーパー5.0%の順であった。

次に、食事を作る人について尋ねたところ、本人50.7%、配偶者32.9%であった。ここにも男女で大きな違いがみられ、男性では79.6%が配偶者であるのに対し、女性では76.7%が本人であった。この結果は、今回の志布志町の調査や鹿児島市の別の調査¹⁷⁾でも観察された。

(5) 主食

次に、主食を調べた。その結果、圧倒的に「ごはん」が多かった(朝食88.6%、昼食86.4%、夕食95.7%)。これは、高齢者では圧倒的にごはんが多いという1990年の国民栄養調査成績結果とよく一致した¹⁸⁾。また、朝食ではパンが6.2%であった。

表7 買い物と食事づくり

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
<買う人>				
本人	47.1%	16.7%	66.3%	***
配偶者	30.7%	70.4%	5.8%	***
その他	19.3%	13.0%	23.3%	
無回答	3.6%	1.9%	4.7%	
<作る人>				
本人	50.7%	9.3%	76.7%	***
配偶者	32.9%	79.6%	3.5%	***
その他	14.3%	11.1%	16.3%	
無回答	2.9%	0.0%	4.7%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

(6) 食生活で気をつけていること

前述のように、鹿兒島市の高齢者は、健康を願い、食生活・栄養を重視している。そこで、食生活で気をつけていることについて調べたところ、表8に示すように、ほとんどの項目で高い値を示した。

野菜を多く食べるようにしている87.1%、味付けは薄味にしている72.9%、食事は規則正しくとる70.0%、海藻を週3回以上食べる68.6%、手作りのものや旬のものを取り入れる67.9%、肉より魚を食べる60.0%など、いずれも健康な食生活を維持していくうえで重要な項目について高い値を示した。しかし、牛乳・乳製品を1日1回は食べる42.9%、ほとんど毎日、肉、魚または卵を食べる40.7%、食事で多くの食品をとる35.7%、いも類を1日1回は食べる23.6%という値は、なお食生活に改善すべき点が残されていることを示している。女性では、手づくりのものや旬のものを取り入れる割合が有意に多かった(男性61.1%、女性72.1%)。

これらの結果は、食事は決まった時刻にとっている89.8%、多様な食品をとっている76.5%という国民栄養調査の成績(60才以上)¹⁹⁾などに比べてやや劣っている。

(7) 惣菜やインスタント食品の利用

惣菜やインスタント食品の利用頻度を調べた。使わない36.4%、月1,2回27.9%、週1,2回22.1%の順であった。

この調査では筆者の過去の調査に比べて、使わない割合が多くなっており、惣菜やインスタント食品の表示や中味に関心が払われるようになってきていることを示唆している。

さらに、使用すると回答した者にその理由をきいたところ、その主たる理由は、調理が簡単で手間が省ける(73.7%)、おいしい(9.2%)であった。志布志町に比べ、簡単で手間が省けると考

表8 食生活で気をつけていること

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
野菜を多く食べるようにしている	87.1%	88.9%	86.0%	
味付けは薄味にしている	72.9%	74.1%	72.1%	
食事は規則正しくとる	70.0%	68.5%	70.9%	
海藻を一週間に3回以上	68.6%	74.1%	65.1%	
手づくりのものや旬のものを取り入れる	67.9%	61.1%	72.1%	
肉より魚を食べる	60.0%	53.7%	64.0%	
乳・乳製品を1日1回	42.9%	50.0%	38.4%	
ほとんど毎日、肉、魚または卵を食べる	40.7%	38.9%	41.9%	
食事で多くの食品をとる	35.7%	25.9%	41.9%	
いも類を1日2回は食べる	23.6%	20.4%	25.6%	
その他	0.7%	1.9%	0.0%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

えるものが多い反面、おいしいと答えるものは少なかった。これは全国の調査結果と似たような傾向であった²⁰⁾。

(8) 食事などのやりとり

次に、近所との食事や野菜などのやりとりについて検討した。月1-2回が最も多く(30.7%)、しない(22.1%)、週1, 2回(18.6%)、週3, 4回(15.7%)であった。1999年志布志町では「しない」が最も少なかったのとは異なる。

地域内のコミュニケーションが、このような食事などのやりとりの活発さに関連していることを示している。

(9) 食生活の満足度

以上のような食生活を鹿児島市の高齢者がどのようにとらえているかを調査した。その結果、表9に示すように、いずれの項目でも高い値であった(食事はおいしい96.4%、食事は楽しい90.7%、外食はしない90.0%、食べたいものを食べている89.3%、食欲はある87.9%、食卓の雰囲気は明るい79.3%、好き嫌いはない76.4%、食事は待ち遠しい63.6%)。

この結果は、食欲がある92.0%、はげしい好き嫌いはない88.8%、外食は多くない94.7%という他の調査結果と比較すると値は全体的に低かった²¹⁾。

最後に、現在の食生活に対する満足度について質問した。その結果、90.0%が満足していると回答した(はい54.2%、どちらかといえばはい35.7%)。

以上のように、鹿児島市の高齢者は全般的に積極的に食生活、日常生活を営むとともに、食生活に満足していることがわかった。

4) 将来について

(1) 将来への不安

将来について不安を感じているかどうかについて質問したところ、「はい」47.1%、「いいえ」

表9 食生活の満足度

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
おいしい	96.4%	100.0%	94.2%	
楽しい	90.7%	96.3%	87.2%	
外食はしない	90.0%	92.6%	88.4%	
食べたいもの	89.3%	87.0%	90.7%	
食欲	87.9%	92.6%	84.9%	
明るい	79.3%	85.2%	75.6%	
好き嫌いはない	76.4%	74.1%	77.9%	
待ち遠しい	63.6%	72.2%	58.1%	
満足	90.0%	90.7%	89.5%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

表10 将来への不安

	全体 (n=140)	男 (n=54)	女 (n=86)	有意差
不安がある	47.1%	40.7%	51.2%	
健康	45.0%	38.9%	48.8%	
生活費	17.9%	13.0%	20.9%	
配偶者に先だたれること	17.9%	20.4%	16.3%	
面倒をみてくれる人がいな	12.1%	5.6%	16.3%	
安心して住める住宅がなし	1.4%	1.9%	1.2%	

***:p<0.005,**:p<0.01,*:p<0.05

45.7%であった(表10)。この数値は従来よりも将来に不安を覚える高齢者が増えてきていることを示している(不安:1994年佐多町35.0%,鹿兒島市43.0%,1996年菱刈町49.5%)。

これは全国的値よりは低い。しかし、全国的にも、老後への不安は増してきている。60-69才の高齢者で不安を感じるものは、1986年男43.4%,女45.9%であったのに対し、1998年には男78.5%,女80.6%となっている²²⁾。

その内訳を見てみると、健康45.0%,生活費17.9%,配偶者に先だたれること17.9%,面倒をみてくれる人がいない12.1%,安心して住める住宅がない1.4%であった。

同様の全国調査の結果では、健康50.2%,経済(生活費等)52.0%,住宅10.2%,家庭の人間関係10.1%,仕事15.4%,介護29.5%であるのに比べ²³⁾。生活費,住宅の面の不安は少ない。

(2) 今後どうしたいか

ついで、今後食事作りや日常の買い物ができなくなったとき、どうしたいと考えているかをたずねた。子供の世話になる37.1%,施設などに入る25.7%,誰かに助けてもらいながら自宅で生活する25.0%の順になった。

これは、国民生活白書が同様の調査をおこなった結果、「自宅に留まる」が約60%であったという結果とは異なっている²⁴⁾。

(3) 食事サービス

さらに、高齢者は食事に注意をはらっているということが明らかになったが、将来にわたって自立的に食事を作り続けることは難しい。地方自治体では食事サービスを実施しているところも少なくない。鹿兒島県でも公的に食事サービスを拡大することを老人保健福祉計画の中で重要な柱としている。

そこで、食事サービスについて調査したところ、食事サービスを知っている割合は70.0%であった。また、食事サービスを利用しているのは2.9%であった。

自治体の財政事情や、高齢者の経済状況など、課題はあるものの、食事サービスに対する潜在的需要は大きいと思われる。

4. 要 約

以上のように鹿児島県中央部の都市である鹿児島市の高齢者の食生活について調査した。その結果を要約すると下記のように要約できる。

- (1) 独居21.4%，夫婦世帯47.9%で高齢者核家族の世帯が多い(69.3%)。また、男性では有配偶で夫婦世帯が、女性では無配偶で独居が多かった。健康と回答した割合は67.1%であった。健康への心がけは、栄養・食事、運動、睡眠・休養、規則正しい生活の順であった。家事一般、庭・住居の手入れ、農業を日常の仕事にしている。また、日常のつきあいは活発であった。約半数が将来についての不安を持っており、その最も大きいものは健康であった。
- (2) 食事は朝昼夕とも規則正しく摂取していた。食事に要する時間は15分から30分未満が最も多く、夕食には多少長い時間をかけている。主食は「ごはん」がほとんどである。配偶者と一緒に食事をする人が45.4%，同居の家族とが25.3%，一人が26.5%であった。
- (3) 買い物や食事を作る人は、男性では配偶者、女性では本人が多かった。買い物の頻度は週3，4回，1，2回，あるいは毎日で、スーパーマーケットで買い物する割合が最も高かった。
- (4) 食生活や栄養に対する関心は非常に高く、特に野菜を多く食べる、うす味にする、規則正しい食事、海藻を週3回以上食べるが上位にあげられた。惣菜やインスタント食品の利用では、使わないが最も多く、次いで月1，2回，週1，2回の順であった。食事や野菜などのやりとりは、月1，2回または「しない」が多く、あまり活発でない。
- (5) 食生活に対する満足の度合いは高く、食事がおいしい、食事が楽しい、外食はしない、食べたいものを食べている、食欲がある、食卓の雰囲気は明るい、好き嫌いはない、食事が待ち遠しいの全項目で、いずれも高い数値を示した。全体としての食生活の満足度は90.0%であった。

なお、食事作り・買い物にみられる男女の家事分担の偏りなど、残された課題は少なくない。今後の課題としたい。

謝 辞

さいごに、本調査にあたってご協力いただきました鹿児島市の関係者のみなさまに深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 総務庁統計局：99/9/14付：統計局インフォメーション(NO.158)統計からみた我が国の高齢者―「敬老の日」にちなんで―，<http://www.stat.go.jp/06211.htm>(1999)
- 2) 厚生省大臣官房統計情報部：日本人の平均余命 平成9年簡易生命表，<http://www.mhw.go.jp/search/docj/other/toukei/h9-ablif/index.html>(1999)

- 3) 総務庁統計局：平成10年10月1日現在推計人口，<http://www.stat.go.jp/05k3c.htm> (1998)
- 4) 厚生省大臣官房統計情報部：平成9年都道府県別生命表の概況，[http://www.mhw.go.jp/toukei/life\(1997\)](http://www.mhw.go.jp/toukei/life(1997))
- 5) 鹿児島県志布志町における高齢者の食生活と日常生活に関するアンケート調査，鹿児島県立短大紀要自然科学篇，(1999)：鹿児島県佐多町における高齢者の日常生活および食生活に関するアンケート調査，鹿児島短大紀要(自然科学篇)，No.46，pp.19-35(1995)，鹿児島県菱刈町における高齢者の日常生活に関するアンケート調査，鹿児島短大紀要(自然科学篇)，No.48，pp.31-41(1997)，鹿児島県菱刈町における高齢者の食生活に関するアンケート調査，日本食生活学会誌，9(3)，pp.63-69(1998)
- 6) 鹿児島市：[http://www.city.kagoshima.kagoshima.jp/Webkago.nsf\(1999\)](http://www.city.kagoshima.kagoshima.jp/Webkago.nsf(1999))
- 7) 鹿児島市：輝きライフ，p.4，鹿児島市福祉事務所高齢者福祉課，鹿児島(1998)
- 8) 同上
- 9) 厚生省大臣官房統計情報部：平成10年国民生活基礎調査報告 高齢者を取りまく世帯の状況，[http://www.mhw.go.jp/toukei/h10-ktyosa/index_8.html\(1998\)](http://www.mhw.go.jp/toukei/h10-ktyosa/index_8.html(1998))
- 10) 同上
- 11) 厚生省保健医療局地域保健・健康増進課生活習慣病対策室：国民栄養の現状 平成9年国民栄養調査成績，p.48，109，第一出版，東京(1999)
- 12) 厚生省保健医療局地域保健・健康増進課生活習慣病対策室：平成9年版 国民栄養の現状 平成7年国民栄養調査成績，p.55，112，第一出版，東京(1997)
- 13) 前掲：平成10年国民生活基礎調査報告 高齢者を取りまく世帯の状況
- 14) 総務庁統計局統計調査部消費統計課：家計調査年報 平成10年(1999)
- 15) 前掲：国民栄養の現状 平成9年国民栄養調査成績，p.44，125
- 16) 同上，pp.125-126
- 17) 鹿児島市：高齢者等実態調査集計分析報告書，pp.120-121，鹿児島市，鹿児島(1999)
- 18) 厚生省保健医療局健康増進栄養：平成4年版 国民栄養の現状 平成2年国民栄養調査成績，p.48-50，154，第一出版，東京(1992)
- 19) 厚生省保健医療局地域保健・健康増進課生活習慣病対策室：平成10年版 国民栄養の現状 平成8年国民栄養調査成績，p.57，121-126，第一出版，東京(1998)
- 20) 食品流通情報センター：食生活データ総合統計年報'99年版，p.589，食品流通情報センター，東京(1999)，[原資料：日本冷凍食品協会：夕食の献立と冷凍食品の利用，1997年12月]
- 21) 前掲：平成10年版 国民栄養の現状 平成8年国民栄養調査成績，pp.121-126
- 22) 経済企画庁国民生活局：平成10年度国民生活選好度調査，pp.16-17，104，大蔵省印刷

倉元：「鹿児島県鹿児島市における高齢者の食生活と日常生活に関するアンケート調査」

局，東京(1999)

23) 同上， p.17, 105

24) 経済企画庁：平成6年版(1994)国民生活白書 実りある長寿社会に向けて， 145， 大蔵省印刷局(1994)